地域を守る使命感

1

ひとたび災害が発生すれば、仕事をなげうって現場に急行、最前線で災害に立ち向かう
平成の町火消し「川根本町消防団」
山岳での捜索活動や、災害現場での人命救助などその活動は火災への対応にとどまらない
本町最大のボランティア組織
使命に燃える消防団の「秋季演習」に密着した

訓練の成果を披露し合う本町消防団秋季演習

本町消防団は9月6日、中川根中学校グラウンドで、平成21年度秋季演習を開催。全分団から291人の団員が集結した。

各分団は大規模災害に備え、常日ごろから消防機材の点検や操作方法の訓練、地域の見回り活動などに励んでいる。特に8月は、3週間にわたってポンプ操法などの訓練を重ね、9月6日を迎えた。

見事な操法観客も息をのむ

訓練披露は、ポンプ操法の部と各個訓練の部に分かれて実施された。自動車ポンプ操法の部には、第1、3、5、7分団が出場。小型ポンプ操法の部には第2、4、6、8分団が出場した。どの分団の団員も、これまで重ねてきた訓練の成果を存分に発揮し、見事な訓練を披露した。

的確な動作でポンプ車を操つる団員、ホースを担ぎ全力疾走する団員、真剣なまなざしで放水する団員、指揮者の号令で一糸乱れぬ動きを見せた各個訓練の出場団員…。そんなキビキビした姿に頼もしさを感じた。

訓練を見学していた来賓や他の団員からは、大きな拍手やかけ声が上がっていた。

審査の結果、自動車ポンプ操法の部は第3分団が優勝、小型ポンプ操法の部は第6分団が優勝した。また特に優秀と認められた団員に対して、個人別の表彰もなされた。

式典の最後は、本町の無災害と消防団の発展を祈念して、火の用心三唱と万歳三唱を唱和して締めくくった。

訓練のための訓練じゃない日ごろの備えこそ重要

機敏な動作の一つ一つに意味がある。実際の災害現場では統率のとれた行動がミスを防ぎ、迅速な対処が可能となる。それと同時に、団員自身の身の安全を確保することにもつながるのだ。

一刻を争う災害の現場では、些細なミスや判断の間違いから命を失うこともある。自らの安全も確保しながら、素早く正確な救助活動をするためには、日ごろから機材に慣れておき、訓練を重ねておくことが重要なのだ。

団員たちは訓練の成果を披露するためだけに集うわけではない。毎晩のように厳しい訓練を重ねるわけではない。

かけがえのない住民の命と地域の財産を守るという、強い「使命感」が、団員個々の心を支えている。

4

2

3

5

❶ポンプ車後方の水槽に向かって吸水管をのばす団員。その表情から「一刻でも早く」という気持ちが伝わってくる　❷町長の訓辞を真剣なまなざしで見つめる団員。指先まで伸びた姿勢、規律が行き届いている　❸指揮者の号令で団員が一斉に駆け足。各個訓練にて　❹ホースを持って全力疾走で火点に向かう　❺真剣な表情で火点を見つめる団員。このあと放水。すぐさま的は倒れた

川根本町消防団

高田智祥（ともよし）団長（元藤川）

8月の地震を教訓とし、消防団員全員の力を結集して万全の備えを

8月11日に発生した駿河湾沖を震源とした大きな地震。町内でも非常に大きな揺れを感じ、その後の余震にも不安を覚えました。わたしたち消防団は、東海地震などの大きな災害が発生すれば、火災への対応だけではなく、人命救助などさまざまな活動が求められることになります。

静岡県を襲った8月の地震を教訓として、大災害の発生時、団員それぞれがどんな対応をすべきか、また何ができるか、今一度考えてみる必要があります。今回の演習も含め、日ごろから訓練を重ねることが万全の体制で備えることにつながります。団員個々の力を結集し、災害に屈しない大きな力で立ち向かわなければなりません。

演習の見学に来ていた

中野恵子（けいこ）さん、翔海（しょうま）くん（上長尾）

団員のキビキビした動作を頼もしく感じた

わたしたちは、夜の練習のころから、時々見学に来ていました。翔海が「今日消防ある？」って、わたしによく聞いてくるんですよ。今日の訓練を見ていて、皆さんのキビキビした動作が本当に頼もしく思えました。子どもに「町を守る人たちの姿」を見せる良い機会となりました。わたしの家でも、非常持ち出し袋など、自分でできることから準備をしています。